

東北海区沿岸水温予報(2016年)

海域	経過 (12~1月)	現況(1月上旬~ 2月中旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水総研発表)	<p>●沿岸定地水温 12月は「やや低い」~「平年並み」、1月は「平年並み」。</p> <p>●定線海洋観測 12月太平洋沖合定線観測では、津軽暖流の各層最高水温は0m層、50m層、100m層共に「平年並み」。水塊深度は「やや深い」。張り出し位置は「はなはだ東偏」。</p> <p>12月日本海沿岸定線観測では対馬暖流の0m層、50m層は「やや低い」、100m層は「平年並み」。</p>	<p>●沿岸定地水温 「平年並み」で推移している。</p> <p>●定線海洋観測 2月日本海沿岸定線観測では対馬暖流の0m層、50m層、100m層共に「平年並み」。</p>	「平年並み」で推移する。	太平洋の沿岸定地水温及び日本海の海洋観測結果が「平年並み」であったこと、また、FRA-ROMSの予測でも同様の傾向が持続することから、「平年並み」で推移すると考えられる。	特になし
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	<p>【12月】 表面水温 距岸10海里以内は、概ね全域で平年並みで推移していた。距岸10海里以東は、県中部沖20海里以東でやや高めのほか、概ね全域で平年並みで推移していた。</p> <p>100m水温 距岸10海里以内は、県中部以北10海里付近でやや高めのほか、概ね全域で平年並みで推移していた。距岸10海里以東は、県北部沖20海里付近及び県中部沖、県南部沖50海里付近でやや高い~高めで推移しており、県中部沖40海里付近で最大4℃以上高めとなっていた。県北部沖50海里付近でやや低めで推移していた。</p> <p>【1月】 表面水温 距岸10海里以内は、県南部沖5~10海里付近でやや低めのほか、概ね全域で平年並みで推移していた。距岸10海里以東は、県北部沖30海里付近でやや高めのほか、概ね全域で平年並みで推移していた。</p> <p>100m水温 距岸10海里以内は、概ね全域で平年並みで推移していた。距岸10海里以東は、県北部沖10海里以東及び県中部沖20~30海里付近でやや高めのほか、概ね全域で平年並みで推移していた。</p>	<p>【2月上旬】 表面水温 距岸10海里以内は、県中部以北10海里付近でやや高めで推移していた。距岸10海里以東は、県中部以北20海里以東でやや高めで推移しており、特に県北部沖40海里付近で最大3℃以上高めとなっていた。</p> <p>100m水温 距岸10海里以内は、概ね全域でやや高めで推移していた。距岸10海里以東は、県南部沖50海里付近で平年並みのほか、概ね全域でやや高めで推移しており、特に県中部以北20~40海里で最大3℃以上高めとなっていた。</p>	3月上旬は、100m深が距岸10海里以内で県北部及び県南部沖で平年並み、距岸10海里以東で概ね全域でやや高め、0海里定点の10m深がやや高めと予測。	農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」において開発した統計的予測モデルによる。	<p>アキサケ(定置網)は低調に推移した。(11~1月)</p> <p>マイワシ(定置網)は、好調に推移した。(11~1月)</p> <p>スルメイカ(いか釣)は低調に推移し、終漁となった。(9~1月)</p> <p>サンマ(棒受網)は低調に推移し、終漁となった。(9~12月)</p> <p>ケガニ(かご)は極めて低調に推移している。(12月~1月)</p> <p>親潮系冷水の波及が弱いため、水温が高めに推移している。(12月~)</p>
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	<p><12月> 【表面水温】12~15℃台で、142° E以西で平年より低め、142° E以東で平年並み。</p> <p>【100m 深水温】 13~14℃台で、平年並みから2℃程度高め。</p> <p><1月> 【表面水温】 表面水温、100m 深水温とも、10~11℃台で、平年並み。</p>	<p><2月> 【表面水温】 6~9℃台となっている。仙台湾内は、平年よりも1℃低め。金華山沖は、9℃台となっており、平年並みから2℃高めとなっている。</p> <p>【100m 深水温】 9℃台となっており、平年よりも1~2℃高めとなっている。</p>	<p><3月> 【100m 深水温】 38° 50' N(気仙沼沖)ラインの142° 30' E以東は平年よりもやや高めで推移する。その他の海域は平年並みで推移する。</p> <p><4月> 【100m 深水温】 いずれの海域も平年並みで推移する。</p>	水温経験的予測システムの主成分スコア自己回帰モデルによる予測	

<p>常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試 発表)</p>	<p>【12月】 <表層水温> 県北:沿岸域が「やや高め」、沖合域は欠測 県中:沿岸域が「やや高め」、沖合域は欠測 県南:沿岸域が「やや高め」、沖合域が「平年並み」 <100m 深水温> 県北:沿岸域が「平年並み」、沖合域は欠測 県中:沿岸域が「やや高め」、沖合域は欠測 県南:沿岸域が「平年並み」、沖合域が「やや低め」 【1月】 <表層水温> 県北:沿岸域が「やや高め」、沖合域が「やや高め」 県中:沿岸域が「平年並み」、沖合域が「平年並み」 県南:沿岸域が「平年並み」、沖合域が「平年並み」 <100m 深水温> 県北:沿岸域が「やや高め」、沖合域が「やや高め」 県中:沿岸域が「平年並み」、沖合域が「平年並み」 県南:沿岸域が「やや高め」、沖合域が「やや高め」 ※ 県北:37-50N、県中:37-25N、県南:37-00N 沿岸域:142-00E 以西、沖合域:142-15E 以東</p>	<p>【2月】 <表層水温> 県北:沿岸域が「やや高め」、 沖合域が「やや高め」 県中:沿岸域が「平年並み」、 沖合域が「やや高め」 県南:沿岸域が「平年並み」、 沖合域が「高め」 <100m 深水温> 県北:沿岸域が「やや高め」、 沖合域が「やや高め」 県中:沿岸域が「平年並み」、 沖合域が「やや高め」 県南:沿岸域が「平年並み」、 沖合域が「平年並み」 親潮系冷水の波及が例年より弱 く、沖合域への黒潮系暖水の波及 がみられる。</p>	<p>【3月】 「平年並み」 【4月】 高め基調で推移する</p>	<p>気象庁の1ヶ月予報において、 親潮南限位置は「42° N、148° E」 と北偏、親潮の面積は「平年よりか なり小さい状態が続く」、黒潮流路 は房総半島で接岸傾向と予想され ている。 FRA-ROMSによると、3月は本 県海域への黒潮系暖水の波及は 弱まるが、親潮系冷水の波及も弱 いと見込まれている。4月は黒潮 系暖水が広く波及し、親潮系冷水 の波及が弱まると見込まれてい る。 以上のことから、3月は「平年並 み」、4月は高め基調で推移すると 予測した。</p>	
<p>常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿 岸; 茨城水試 発表)</p>	<p>12月は、表層は沿岸域で「平年並み～やや低め」、沖 合域では「平年並み～やや高め」であった。100m深では 概ね全域で「平年並み」であった。 1月は、大吠埼定線の沖合域で「やや高め」となったが 、その他海域については0～100m深で概ね「平年並み」 であった。</p>	<p>2月は、冷水が南下した影響に より0～200m深の概ね全域で「や や低め～低め」となった。大吠埼 定線では「極めて低め」の海域も 見られた。 沿岸域、沖合域ともに逆潮傾向 が強かった。</p>	<p>「低め基調」で推移する。</p>	<p>①2月までの観測データを用いて 自己回帰分析を行ったところ、3月 、4月ともに「低め基調」となる予測 。 ②FRA-ROMSによると、1か月後 の水温は表層、100m深ともに「平 年並み～やや低め」で推移する 予測となっている。</p>	<p>①2015年12月の 北部太平洋まき網 によるサバ類の水 揚量は61,445tで、 月の水揚量が6万t を超えたのは1997 年11月(77,238t) 以来。 ②卓越年級群で あるマサバ2013年 級の成長遅れが 顕著。</p>

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+3.1℃～	+3.7℃～	+5.8℃～	+5.7℃～	+4.8℃～	+6.1℃～
高い(7.5%)	+2.0～+3.0℃	+2.4～+3.6℃	+3.8～+5.7℃	+3.7～+5.6℃	+3.1～+4.7℃	+4.0～+6.0℃
やや高い(20%)	+0.8～+1.9℃	+1.0～+2.3℃	+1.5～+3.7℃	+1.5～+3.6℃	+1.2～+3.0℃	+1.6～+3.9℃
平年並(40%)	+0.7～-0.7℃	+0.9～-0.9℃	+1.4～-1.4℃	+1.4～-1.4℃	+1.1～-1.1℃	+1.5～-1.5℃
やや低い(20%)	-0.8～-1.9℃	-1.0～-2.3℃	-1.5～-3.7℃	-1.5～-3.6℃	-1.2～-3.0℃	-1.6～-3.9℃
低い(7.5%)	-2.0～-3.0℃	-2.4～-3.6℃	-3.8～-5.7℃	-3.7～-5.6℃	-3.1～-4.7℃	-4.0～-6.0℃
極めて低い(2.5%)	-3.1℃～	-3.7℃～	-5.8℃～	-5.7℃～	-4.8℃～	-6.1℃～